

虹をかけよう

日野小学校 4 学年通信

No.23

長野県は、ごみの少なさ日本1

ごみの学習を進めていく中で、中野市の一人当たりの一日に出るごみは、786gだということがわかりました。子どもたちは、家庭でのごみ調査をしてきているので、予想を立てた時に、「1キロは、いかにないんじゃないかな。」「800gくらいかな？」など、大体的見当をつけることができていました。中野市の一人当たりのごみの量は、県内の市町村の中で多い方から29位でした。786gでも少ないと思ったのに、もっと少ない市町村がたくさんあるので、さらに調べてみると、長野県のごみの量の少なさは、6年連続日本一だということがわかりました。

タブレットを使って、一人ひとりその理由を調べてみると、「チャレンジごみ800」（一人分のごみを800gに減らす運動）や「食品ロスをなくそう3010運動」などの取り組みが行われたり、早くから分別用の仕分け袋の利用が促進されていたり、生ごみの堆肥化という家庭での取り組みがあったというようなことがわかってきました。

今週、火曜日には、学校の可燃ごみを集めて来てくれた「ごみ収集車」の見学をすることができました。学校のごみを集めてくれる収集車は、更科・高遠・新野・間山地区を中心に一日3台分7トンのごみを集めてくれているそうです。作業員の方は、車を止めて、ごみを詰める操作を見せてくれたり、子どもたちの質問に答えてくださったりしました。一番大変なことは、ごみ袋に水が入っていると、プシューっと水が飛び、濡れてしまうことだそうです。自分たちの目で見て、話を聞くことができ、よい学習ができました。

コロナウイルス感染レベルが下がったので、本当は9月に予定していた「ごみ処理施設」の見学に行きたいと思います。地域のごみステーションで回収されたごみが、どのように処理されるのかを見てきます。子どもたちも楽しみにしています。

